

政治学Ⅱ 2021 年度

対面での試験が実施できなかったため、変則的な方式を採った。

WebClass の機能を使ったオンライン試験を 3 回に分けて実施した。試験は授業時間割の時間中に行い、各回の試験時間は 8-12 分程度、アクセスの集中を避けるためにグループごとに分けて実施した。

3 回の合計の設問数は 100 で、配点は各 1 点とし、基本的な素点として合計 100 点分が行われた。

ただし、通信環境の問題などで指定した時間での試験を受けられなかった人には相応の配慮をした。

各回の設問・解答形式は全て同じで、提示された文章が正しいか否かを選択させるものである。

なお、全体としての評価点数は、この試験に加えて、毎回の小テスト(出席確認)とチャットでの意見交換セッションへの参加などを総合的に検討した結果である。

試験問題の一部を以下に例示する。

次の文章が正しいと考えるときは選択肢の 1 を、誤っていると考えるときは選択肢の 2 を選びなさい。

1. 個人主義と自由を基礎とする社会では、集団としての意思決定において多数決が避けられない場面がある。
2. いわゆる天下りは、日本的な官僚の人事慣行と密接に関係していた。
3. 戦後日本の官僚制では、アメリカの戦後改革によって導入された職階制が概ね重要視されてきた。
4. 議院内閣制では、内閣が議会に対して連帯責任を負っているため、閣議での決定は厳格な全会一致が求められる。
5. 2009 年の政権交代の後、自民党では組織改革が進められ、政務調査会の機能がより充実するようになった。